

『平和かわら版』 発刊20周年 600号記念

茨城県平和委員会が再建されてから20年を迎えます。

再建の半年後、「平和かわら版」の発行を開始しました。創刊の編集を担ったのが、(水戸西平和の会)の神原 要さんです。発刊20周年を迎えて、神原さんにその思いを語っていただきました。年内には20周年記念行事を計画しています。

【県平和委員会再建後の『平和かわら版』第1号】



懐かしの「平和かわら版」

再開された県平和委員会会報第1号を発行

水戸西平和の会 神原 要

原稿を依頼され、当時の「平和かわら版」をFAXで送ってもらい、懐かしい思い出がよみがえってきました。日付はちょうど20年前の7月15日(月)、たしかに私のワープロで作られた紙面、それが再開された茨城県平和委員会の会報第1号でした。

伊達さんを知るようになったのは、私が高教組に入ってまもない、1980年代の半ば頃かと思います。仲間に誘われて百里の「初午まつり」に行くと、壇上やら下の酒宴で生き生きと動き

回っている方が、伊達さんでした。その後、高教組青年部での沖縄研修旅行やいろいろな学習会でも講師役をお願いしたかと思います。

そのうち、詳しい事情はよく分かりませんでした。伊達さんが茨城県平和委員会の本格的再開を目指すという話になり、少し事務局の手伝いをしてほしいと私に声がかかりました。自宅が水戸にあるということもあったのでしょうか、足繁く平和会館に通うようになりました。

その後の伊達さんの活躍は、みなさんご存じのとおりですが、飯村さん、松原さんも加わり、水戸で1993年に開かれた平和大会の全国大会(日本平和大会)が、今も私の記憶に残る取り組みでした。私も水戸平和委員会の事務局を預かるようになっていましたが、その中で伊達さんに言われた印象深い言葉があります。「運動も金に苦勞するようになったら一人前だ。」最近、たいした運動も苦勞もしておらず、申し訳ない気持ちです。



こんな教科書 子どもに渡せますか？

(子どもと教科書茨城ネット21 神林 昇)



- 今年は、中学生が来年から4年間使う教科書の採択が行われます。とりわけ子どもの歴史認識、社会認識形成に大きくかかわる社会科の教科書(歴史、公民)の採択は、大変重要です。
- 2001年以降、「新しい歴史教科書をつくる会」が発行する教科書が問題視されてきましたが、06年に組織が分裂し、今回は2つの組織がそれぞれ教科書を発行しました。「つくる会」・自由社版と「教科書改善の会」・育鵬社版の2種類の歴史・公民の教科書が、採択の対象に加わりました。
- 自由社版、育鵬社版ともに「原作」は2005年発行の「扶桑社版」ですから、内容は大同小異、そのひどさ加減も同じです。
 - ・ アジアにたいする侵略戦争を「大東亜戦争」と呼び、「アジア解放の戦争であった」、日本軍は「解放軍」であったと書いています。
 - ・ 日本国憲法は「占領軍に押し付けられた憲法」だ。「わずか1週間で作成した英文の憲法草案を日本政府に示した。」

「それを拒否した場合、天皇の地位が存続できなくなる恐れがあると考え、やむを得ず受け入れた。」としています。

- ・ 「国民主権」の項目では、もっぱら「象徴天皇」の宣伝、「天皇礼賛」の記事と写真。
- ・ 「憲法9条」を敵視。「日本の平和は自衛隊と安保条約によって守られている」と主張し、「平和主義」に続けて「憲法改正」の学習をもってきています。
- ・ 「侵略戦争の美化」、「憲法敵視=改憲」、「天皇崇拜」(愛国心の称揚)で一貫しています。

○ 自民党や右派勢力は、この教科書が、「改悪」教育基本法にある「教育目標」(伝統文化の尊重や愛国心の育成)をもっともよく反映した教科書だとして、地方議会で「決議」などを採択し、教育委員会の教科書採択に圧力をかけています。茨城県議会も「決議」を採択(3/22)

○ 私たちは、このような教科書は絶対に採択させないという目標を立て、県内11の採択地区で、すべての市町村教育委員会に対して「公正で民主的な採択」を求めて要請活動をしています。



歓迎！新入会員のみなさんです。 宜しくお願いします。

鈴木 秀一 さん(牛久市)
服部 勝善 さん(牛久市)
金澤 敏行 さん(取手市)
木村 福治 さん(水戸市)
塙 房子 さん(水戸市)
宮田 美代子 さん(水戸市)

各平和の会(平和委員会)のみなさん一人ひとりの力で、月5名の仲間づくりを実現いたしましょう。

平和新聞

2011年7月25日(月曜日)

1962号(毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 600

2011.7/25
発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

2011県内平和大行進各地をゆく

核兵器の廃絶をめざして 会員20人が行進し、市民にアピール

おおみや平和の会 大曾根好一

事前に、「2011国民平和大行進 7月3日(日) 大宮市内 みんな一緒に歩きましょう!!」のチラシを配布しました。当日は「大子」・「山方」・「美和」・「緒川」・「大宮」を、その後に「城里」・「那珂」・「東海」へと、核兵器廃絶を市民に訴えながら行進しました。行進に先立ち、大宮コミセン前で集会を行い、常陸大宮市長からメッセージを受けました。

世界では、アメリカに10,685発、ロシアに14,000発を中心に、殺人のための核兵器が26,000発も開発・貯蔵されています。核兵器は、一発で数十万人から数百万人を殺します。兵隊・市民の区別は出来ません。核兵器保有は殺人鬼と同じです。47億年の地球史上最悪の犯罪者です。

核兵器保有国の費用は10年で80兆円もかけています(6/20英紙)。また、東京都知事・石原慎太郎氏は6月20日、都内の講演会で「日本は核兵器を持つべきだ」などとしゃべり、人類無視、日本人無視の発言を続けています。許されるものではありません。核兵器保有国は一刻も早く核兵器の廃棄をすべきです。

今年の平和行進に初めて参加した人も数人いました。行進の数日後に参加者の懇談会を開催したところ、8人が参加しました。平和行進に対するメッセージを紹介します。

- 心で行進に参加しています。7月3日の平和行進に参加できませんでしたでしたが、私は心で行進に参加しています。(菊池れい子さん)
 - 「一つになろう 日本!」の呼び掛けには従いません。一つになるのは怖いこと。自由にものが言える暮らしを失わないように、目配りしていこうと思います。お仲間に入れていただきます。よろしく願いいたします。(小野瀬みよ子 那珂市 瓜連)
 - 孫達のためにも、原発を無くしていきたい!! そのためにも皆様と一緒に歩んで行きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。(菊池たけ子 常陸大宮市鷹巣)
- 来年も、今年以上に参加者を増やし、元気に行進したいと考えています。

平和行進 in つくばみらい

つくばみらい平和の会

7月11日(月)、今年も原水爆禁止国民平和大行進がつくばみらい市内を行進しました。

谷井田のJAから福田の伊奈庁舎まで市民にアピールしながら行進、庁舎では二十数名の職員が迎え過去最高の七十名余の参加者で集会が行われました。市の幹部、大震災地を歩いてきた全国通し行進者そして市内の団体民商・新婦人・平和の会の挨拶があり、盛り上がった集会になりました。

核兵器廃絶の思いを、茨城から 千葉に引き継ぐ

鹿行平和行進実行委員会



7月12日(火)、夕方5時頃、阿見・竜ヶ崎の平和行進団50人がバス潮来市の役場玄関に到着。鹿行平和行進実行委員会のメンバーが出迎えました。

7月13日(水)、鹿行平和行進団は、9時から百里平和公園で出発式を行ないました。行進団長の小久保会長の挨拶のあと、梅沢百里平和委員会会長、加藤県原水協会会長、塚本議員から挨拶を頂き、記念写真を撮影したあと、出発しました。

銚田市、行方市を終了したあと、潮来市の津知公民館で昼食をとりました。昼食後、参加した各団体の交流会を行ないました。また、参加者全員から一言を頂きました。午後一番に潮来市を訪問し、ついで、鹿嶋市にまわり、最後に神栖市となりました。神栖市では冷たいお茶の接待があり、一行は一休みとなりました。

千葉への引き継ぎは5時からです。30人余の行進者がバスで香取市の役場に向かいました。香取市では、40人ほどの仲間が出迎えてくれ、感動的な引き継ぎ式となりました。

[シリーズ] わが街 わか会員

日立市 / 藤本 明美 さん (さくらのまち日立平和の会)



3月の地震と津波から約4カ月、まだ自宅の屋根は瓦の修理ができません。あの日、800年の昔鴨長明が「方丈記」で描いた元暦の大地震の描写そのものでした。人は自然の中で生かされて歴史をつないできたに過ぎない事を思い知らされました。現代の災害において決定的に違ったのは原発事故という人災が加わったことです。

先日、東海村の第二発電所の状況説明会に参加しました。村内および隣接の市町村の住民に対する原発の現状報告の会です。私が参加した日立市民向けの当日、会場はあふれんばかりの人で、やはり関心の深さをひしひしと感じました。

質疑応答の時間になって、「情報は隠さず開示せよ」「安全対策は?」「廃止する予定はないのか」など次々と声があり、予定の倍を超える時間でも終わりませんでした。日本原子力発電職員の「安全対策はしっかりしているので、住民の皆様の為に原発の稼働をさせていただきたい」と胸を張る言葉に寒気を覚えました。

テレビの画面で見ただけでも、身の震えるような福島原発事故は彼らには教訓となっておらず、再稼働は住民の為に言い切る神経に、予想はしていましたが唾然としました。

この未曾有の震災と原発事故を経験して、片隅に生きる人間にもいつ何が起こるかかわからないのだと実感しました。なればこそ、次の世代の人にはせめてきれいな自然と穏やかな世をつなげないものかと思えます。原発事故の終息をひたすら願っています。

「茨城の原発をなくそう対策委員会」準備会 が、開催されました (7/14)

福島原発事故と東海第2原発をめぐる情勢の討議、獲得課題、具体的なとりくみ等について意見を交わしました。関東で原発があるのは茨城県だけであると同時に、極めて危険な状況です。県内の「原発をなくす運動」はもちろん、全国の仲間と連帯し、東海第2原電の廃炉を実現すること確認しました。第1回の対策委員会が7月28日(木)に行なわれます。